

地域包括支援 問 介護保険課 ☎43-8264 FAX30-0011

自分の住んでいるまちを住みよくするために 話し合いを重ね 支え合いの地域づくり

市では、地域全体の生活支援体制の強化を目指す「在宅医療・介護連携推進事業」と「生活支援体制整備事業」に取り組んでいます。「在宅医療・介護連携推進事業」では、市内の医療機関・介護施設に勤務する多職種のメンバーで構成される下妻市在宅医療・介護連携推進実行委員会が医療と介護の切れ目ない支援ができるよう2か月毎に話し合いをしています。

「生活支援体制整備事業」は、日常生活の支援や介護予防にかかる体制の整備、そのほかこれらを促進する業務であり、「生活支援コーディネーター(SC)」の配置と併せて「協議体」の設置が求められています。協議体は、「互助を中心とした地域づくりを住民主体で進めるために、助け合い活動をともに創出し、充実させていく組織」のことを言います。市では、市全体という広い視点で協議する「第1層協議体」と、各中学校区のコミュニティで、第1層の機能の下で具体的な活動を展開する「第2層協議体」を設置して、支え合いの地域づくりを推進しています。



寸劇をするケアマネージャーたち

■市民向け講演会を開催

12月15日、市は、当たり前の日常は病気やけがが原因である日突然医療や介護が必要な状況になることから、医療や介護の仕組みを学ぶ、市民向け講演会を市立図書館で開催しました。

講演会は2部構成で開催。1部は東埼玉総合病院の中野智紀医師を講師に迎え、「普通に暮らせる幸せ～生きてるって本当だけ～」をテーマに講演があり、2部ではケアマネージャーらによる寸劇を交えながら介護保険制度に関する情報提供などを行いました。



情報交換をする参加者たち

■鹿嶋市協議体との交流会を開催

12月19日、市協議体は、先進的な取り組みをしている鹿嶋市協議体との交流会を市役所第二庁舎大会議室で開催。交流会では、お互いの地域課題などの情報交換が行われ、既にある支え合い活動の情報共有をしたり、いつまでも住み続けることができるまちづくりには何がかなどを話し合っていました。

「支え合い」を自分のことと捉え、住みよいまちにするためには、一緒に考えることが大切です。協議体に興味のある方は、地域包括支援センターまでご連絡ください。

協働のまちづくり 問 市民協働課 ☎43-2114 FAX43-1960

地域の魅力PR「スキルアップ研修会」を開催

11月27日、下妻市ネットワーク等連絡協議会(小竹浩子会長)による、スキルアップ研修会が市役所第二庁舎大会議室で開催され、同会員など24人が参加しました。

研修会では、県プロモーション戦略チームによる出前講座「一緒に茨城を売り出しませんか」の講演があり、参加者たちは、茨城県の魅力やPRの手法などについて学んでいました。講演後、参加者からは、県の魅力として下妻市には梨や豚肉といった美味しい食べ物があることを講師に紹介しました。参加者は、「一人一人が自分の住んでいる地域の魅力を知り、国内外にPRしていくことが一番大切だとわかった。」と研修の感想を話していました。



魅力のPR手法を学ぶ同会員たち

有料広告欄

ごみ組成調査の結果から見てきたもの

ごみの減量・分別・リサイクルにご協力を!!

市では、今後の基礎資料を得ることを目的に、市内のごみ集積所を無作為に抽出し、家庭から出されているごみがどの程度分別されているかを分析する、ごみの組成調査を毎年1回実施しています。令和元年11月に実施した調査結果は、下記のグラフのとおりです。

■ごみ組成調査結果

資源リサイクルの推進とごみ排出ルールの徹底

令和元年度の調査の結果、リサイクル可能な資源ごみの混入割合は「可燃ごみ」では全体の19.1%、「不燃ごみ」では全体の43.5%となっています。いまだ多くのリサイクル可能なものが可燃ごみ・不燃ごみとして捨てられてしまっていることがわかります。資源として排出することで、市指定ごみ袋を必要とする家庭ごみを減らすことができ、地球資源・地球環境の保全につながります。市で分別回収していない食品トレーなどもスーパーなどの民間事業者でリサイクル資源として回収しているものもありますので、積極にご活用ください。

また、「不燃ごみ」では、可燃ごみ(6.5%)の混入が見受けられました。市では、このようなルールの守られていないものがあった場合には、ごみ袋に黄色の【回収できませんシール】を貼付し、分別や正しい排出方法の徹底を推進しています。

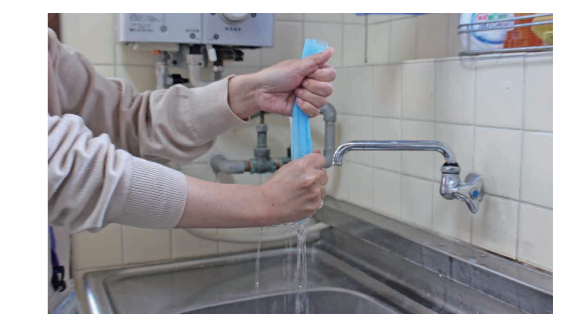
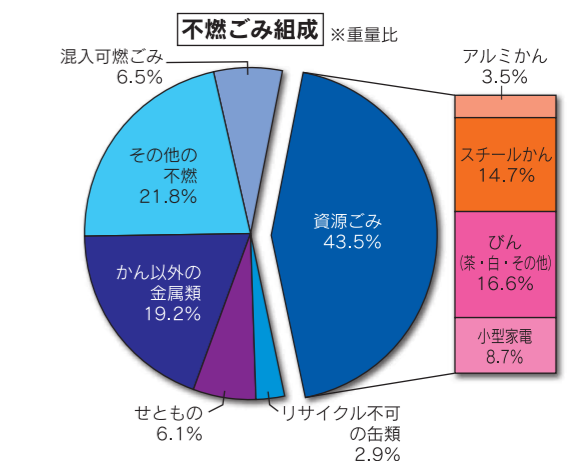
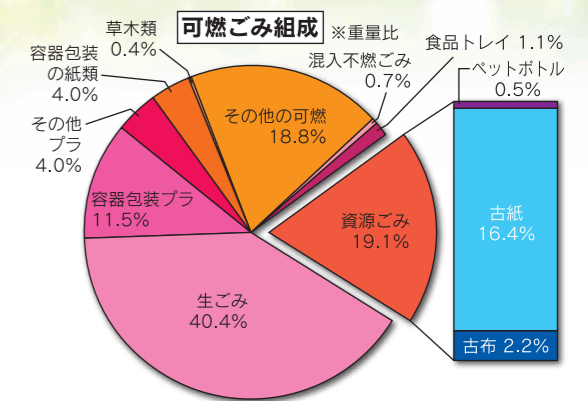
■水切り運動推進

水切りをして、生ごみの水分を減らしましょう

一般的に可燃ごみの約4割は生ごみで、生ごみの約7割が水分と言われています。生ごみなどの可燃ごみはクリーンポート・きぬで焼却していますが、水分が多いと焼却温度が上がりにくく焼却効率が悪くなります。生ごみの水切りをすることで水分が減り、焼却効率の向上につながります。また、生ごみの水分が減ることでごみ全体の重量が減少し、ごみ収集車で運搬する際の燃費向上にもつながります。

生ごみの水切りの徹底は、単純な市の経費削減だけではなく、家庭でもごみの重量が減り、ごみ出しの負担軽減になるほか、ごみの腐敗防止や悪臭対策も期待できます。また、焼却、運搬の両面から二酸化炭素の発生を抑えることができ、地球温暖化の抑制にもつながります。

地球環境と地域のごみ集積所を清潔に使うためにも、生ごみの水分を減らしましょう。



生ごみの水分が減ることでごみ全体の重量が減少

ごみ分別アプリをご利用ください



「下妻市ごみ分別アプリ」では、ごみに関するさまざまな情報を確認することができます。収集カレンダーやごみ分別辞典など、日々使える便利な情報を得ることができます。

iPhone用



Android用



有料広告欄